



TITLE:

<探索実習記録 1>病院内の環境づくりの工夫 --光環境と掲示物に焦点をあてて

AUTHOR(S):

山之内, 薫; 沢井, 棕介; 巖田, 光里; 宗像, 悟; 鳥羽, 拓馬

CITATION:

山之内, 薫 ...[et al]. <探索実習記録 1>病院内の環境づくりの工夫 --光環境と掲示物に焦点をあてて. 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要: 健康科学: health science 2018, 13: 21-22

ISSUE DATE:

2018-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/233170>

RIGHT:

に伝えるように患者に促していた。待合室には、必ず何曜日をどの先生が受け持っているという時間割があった。この表を確認している患者も多く見受けられた。また、混み合うと予想される科や中央採血室、検査室では、現在の待ち時間や、時間帯、曜日における待ち時間の傾向を示しているところもあった。加えて、受付に時間がかかってしまうことに断りを入れるものや、長時間の待ち時間に対する謝罪があった。病院内の通路においては、注意喚起が多く見られた。フォントを大きくし、色を変え、簡潔にしてイラストを入れることで通行人の目を引きつけるものだった。具体的には、病院内での接触事故や、エスカレーターで、PHS型情報端末のアラームに驚いておこる事故への注意喚起があった。また、通路には道案内もところどころあり、天井についている看板だけでははっきりとわからない道順や、壁に隠れて見えない場所などを明確に示していた。外来棟と中央診療施設棟の連絡通路には絵画や写真が何枚も展示してあった。

考 察

<照明>

200ルクスや300ルクスの箇所が多いのに対して、3Fのほっこりスペースやプレイルームが他の科の受付等に比べて明るいのは、診察や治療を主な目的とした場所ではなく、人が集まり活動をするスペースであるからだと考える。待合室が300ルクス程度で抑えられているのは、「病室環境としては、患者にストレスをできるだけ与えることなく、特別な場所に来ていると感じさせない日常の家庭生活に、できるだけ近い環境、いわゆる癒しの環境づくりが基本となります。そこで、病室の照明は、入院患者の生活の場としての照明であるとともに、診療および看護のための照明を満足する必要があります。[文献1]」とあることから、日常の家庭生活と似たような環境を作ることによって患者へのストレスを軽減するためであると考えられる。なお、300ルクスは団らん・読書をするのに十分な照度である。

表1の病院内の照度基準と実際の測定結果を比べてみると、ほぼ両者に差がなかったため、基準に従った環境作りをしていると考えられる。

照明と患者の気持ちは関係しているか、という問いについてだが、光の感じ方は個人差があるため必ずしも患者の気持ちに関係しているということではないと考える。

<掲示物>

院内における、5種類の貼り紙のうち、まず、病気に関する貼り紙については、患者が自身の体調を見直す機会を与えるものだと考えられる。患者が、症状や

表1 病院内の照度基準 [2]

照度 lx	場 所	作業
1,500		
1,000	(10,000 lx ~ 5,000 lx : 視機能検査室 (眼科明室)) 手術室	剖検、分べん介助、救急処置、視診、注射、製剤、調剤、技工、検査、窓口事務
750	診察室、処置室、救急室、分べん室、院長室、医局、研究室、会議室、看護婦室、薬局、製剤室、剖検室、病理最近検査室、図書室、事務室、玄関ホール	食堂、配膳室、一般検査室 (血液、尿、便などの検査)、生理検査室 (脳波、心電図、視力などの検査)、技工室、中央材料室、アイソトープ室
500		包帯交換 (病室)、ギブス着脱
300	育児室、記録室、待合室、面会室、外来の廊下	ベッドの読書
200		
150	麻酔室、回復室、霊安室、更衣室、浴室、洗面所、便所、汚物室、洗たく場、カルテ室、宿直室、階段	病室、X線室 (撮影、操作、読影など)、物療室、温浴室、水浴室、運動機械室、聴力検査室、滅菌室、薬品倉庫
100		
75	動物室、暗室 (写真など)、非常階段 (2 lx ~ 1 lx : 深夜の病室及び廊下)	内視鏡検査室、X線透視室、眼科暗室、車寄せ、病棟の廊下
50		
30		

病気の兆候を知ることで、自身に潜む病気の早期発見が期待できる。また、他のポスターと字体や大きさ、色を変えた注意喚起の貼り紙は、文章を視覚的な観点から患者に向けて心地よく伝えられるように工夫していると考えられる。大学病院で患者の人数が多いので、一人一人に注意を払うことが難しいが、貼り紙を用いて注意事項を柔らかく多くの患者に伝えることで、治療が円滑にすすみ、医師や看護師の負担も減るのではないかと考える。同様の理由で、京大病院では待ち時間がほかの病院と比べてとても長い、曜日ごとの待ち時間の統計を示すことで患者を分散させ混雑改善を試みていると考えた。また、混雑に対する理解を求めるものでもある。

道案内のポスターは、障害物がある見えにくい等の理由で既存の看板だけでは患者がたどり着きにくい地点への順路を示しており、不便だという患者の意見を反映し、改善した点であると考えられる。

文 献

[1] 病院の照明, 2017年8月4日アクセス,
<https://www2.panasonic.biz/es/lighting/plam/knowledge/pdf/0210.pdf>

[2] 西村唯史, 病院における最近の照度設備, 電気設備学会誌, 29(5)364-368.